

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 9 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493100048		
法人名	社会福祉法人 成 城 会		
事業所名	高齢者グループホーム瓢箪家		
所在地	広島県安芸郡熊野町城之堀二丁目28番41号 (電話) 082 (573) 0558		
自己評価作成日	平成28年8月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3493100048-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年9月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>○認知症高齢者の暮らしやすい環境作りに努めております。 ○各居室の配置、照明、トイレの配置等、プライバシーを配慮したものとなっております。 ○利用者の自立を促し、介護者の介護負担の軽減に配慮した前傾姿勢支持テーブルを、トイレ、脱衣室に設置しております。浴室にも、前傾姿勢保持テーブルを法人独自で開発、設置しております。 ○日々の生活の活性化のため、月1回の外出行事、地域と自由なミニデイを実施しております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>居室の設計・配置は、施設職員が管理する視点ではなく、利用者の「人としてあたりまえの生活」を送るため、あえて見通しの悪い空間という配慮がされています。設備も、食堂における利用者の体格に応じたテーブル・椅子の設置、トイレや風呂には利用者が生活機能を発揮しやすい設備（前傾姿勢支持テーブル）の取り付けなど、利用者が持てる能力あるいは介護職員の気付かない潜在能力を発揮しやすい環境を整え、安全でより豊かな生活を送る配慮がされています。これらハード面から、施設の介護に関する考え方が明確に伝わる一方、「進化する認知症ケア人材の育成」を施設の方針として明確に打ち出して取り組んでおり、物理的環境と人的環境の最適化による、利用者の自立した生活の実現を目指す姿勢が伺えます。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念「楽しい心、謙虚な心、感動する心」を掲げ、実践に努めている。その理念の基、瓢箪家の利用者様との3つの約束を作り、職員間で共有を図っている。	介護現場の観察ならびに、介護職員からのヒアリングにおいて、法人理念のもと当事業所の利用者様との3つの約束「丁寧・笑顔・感謝の気持ち」が職員に浸透し、介護実践の基盤となっており、日々の利用者の支援・行事の企画、実践場面等で活かされていることが伺えました。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事(敬老会、文化祭)に、積極的に参加している。地元の保育園と交流をしている。	地域行事に積極的に参加されています。また、「認知症介護の地域拠点として、地域住民から信頼される事業所」として、信頼され頼られる存在となるよう、地域に対する情報発信力を高めることを課題と認識し、事業所の地域化に取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人の行事(夏祭り、秋祭り)の案内をし、参加して頂く中で、理解・協力を得られるよう務めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告や意見交換の場を設け、会議での意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用者家族ならびに町内会員でもある民生委員などから、積極的な意見・質問が寄せられ、施設の理解の促進につながっています。家族への情報伝達方法の改善や、日々の出勤者が一目でわかる写真入りボードを設置する等、会議での意見が運営に活かされています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	熊野町担当者とは、日頃から連絡を取り合い、運営推進会議では、事業所の状況報告やケアの取組みを積極的に伝え、意見交換を行っている。	運営推進会議での、町担当者との意見交換ならびに要介護認定・更新手続きや介護事故報告時を活用し、積極的に事業所の情報を町担当部署へ提供し、協力関係の構築に取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内研修で、身体拘束廃止について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ただし、門扉については、熊野町行政からの指導により、常時施錠している。</p>	<p>町担当部局の指導による門扉の施錠に関しては、切迫性・非代替性・一時性等を検証するに至っていないことも課題と認識しつつ、身体拘束に関する法人内研修により、職員の身体拘束に関する一層の理解促進に努め、身体拘束をしないケアに取り組まれています。</p>	<p>町担当部局の指導等の具体的な事例を、理解促進の好機と捉え、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為の理解に留まらず、自らの施設の志向する自立支援の介護と、身体拘束に関する「職員の考える力」を育む人材育成に取り組まれ、一層効果的な認知症高齢者支援の実現を目指されることを期待します。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>事業所内研修及び外部研修参加により、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>パンフレット等を活用し、学ぶようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に際しては、事前見学等を行い、十分に説明をし、理解納得された上で、契約するようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃より、面会時や電話連絡時を活用し、声を掛け、話しやすい雰囲気作りに努めている。運営推進会議での要望を、運営に反映するようにしている。</p>	<p>利用者の小さな変化、日常のちょっとしたことなどを、こまめに家族に報告することで、家族が面会時等に職員に対し話しやすい環境づくりとして取り組まれています。外部の苦情受付機関は重要事項説明書に明記し、利用契約前に説明されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議や日頃のコミュニケーションで、一人ひとりの意見を聴くようにしている。事業計画や年間計画は、職員の意見をふまえて作成している。</p>	<p>職員ミーティングは、利用者の状況を勘案しつつ、1週間に1回から3回開催し、その中で、事業計画や事業所運営に関する職員の意見を求め、運営に反映させています。また、職員との話し合いを重ね、平成27年下期から、有給休暇の計画的な取得にも取り組まれています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員一人ひとりが目標を持ち、業務に取り組めるよう、人事考課制度を取り入れている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内研修は、年間を通して開催すると共に、職場外研修にも積極的に参加するよう働き掛けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>定期的に地域の在宅ケア検討会に参加し、意見交換、情報収集が出来る。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前に、本人、家族の話を聴き、ケアプラン原案を作成し、担当者会議で、事業所の職員間で、共有出来るように努めている。</p>		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前に、家族の困っていること、要望を聴き、ケアプラン原案を作成している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族の思いや意見、事情等を把握し、職員間で話し合い、必要な支援を見極めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>共に、食事を作ったり、食器を洗ったり、洗濯物を畳んだり、日々の活動を通して、利用者自身の暮らしづくりが出来るよう支援している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族には、面会等の機会を利用して、日々の様子を伝え、本人の思いが実現できるよう協力を依頼している。また、変化があれば、すぐに家族に報告、連絡、相談をしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人や家族からの要望、情報を基に、馴染みの場所への外出を行うことで、関係づくりを継続して行っている。</p>	<p>利用者や家族の希望する、馴染みの場所への職員による外出支援は勿論、利用者が知人の運転する車により外出し、食事をする等、馴染みの人や場所との関係の継続を重視し、支援されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	家事等の日常生活の場面で、一緒に作業を行うなどの配慮をしている。食事やレクリエーションの時には、座席にも配慮し、声を掛け合う雰囲気作りに努めている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	退居を希望された利用者には、居宅介護支援事業所や、他の介護保険施設等へ情報の提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	ご本人や家族の要望を、日常会話や表情等から把握し、得た情報は、申し送りノート等に記載し、職員全員が共有出来るようにしている。	利用者一人ひとりの希望や意向は、生活の中の何気ない会話のなかで汲み取るよう努めており、把握した情報は申し送りノート等で、共有するよう取り組まれています。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	利用前に、ご本人や家族から情報収集を行い、日々の過ごし方、趣味、特技等の把握に努めている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	カンファレンスや情報共有ノートを活用し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>定期的にカンファレンスを行い、本人、家族の意向や、新たなニーズをケアプラン原案に反映している。</p>	<p>日頃の利用者との関係作りの中で、より良く暮らすためのヒントを集め、家族との話し合いの結果をも反映した介護計画づくりに取り組まれています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子は、個別記録に記載すると共に、情報共有ノートや報告メールを活用し、情報の共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個々別の要望に応じ、通院、買い物等への付き添いを行っている。訪問理容室を利用し、整容の支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のミニデイ、文化祭、敬老会、地元の保育園の行事等に、参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医への受診は、家族対応が基本だが、希望があれば、職員の同行受診や薬の受け取りの対応をしている。協力医療機関での受診では、事業所の看護職員が家族と連絡を取り合い、医療に関する情報を共有している。なお、週1回、歯科往診があり、口腔ケアや治療が行われている。</p>	<p>利用者・家族の希望するかかりつけ医の受診を保障しつつ、歯科医の往診による口腔ケアや治療環境を整えています。かかりつけ医受診の際には、同行する家族へ事業所での状況を十分に伝え、かかりつけ医の受診結果を、家族より報告を受け記録する等、情報共有に努めた適切な支援に取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	看護職員を配置し、日常の関わりの中で気づいたことは、看護職員に報告し、適切な受診や看護に繋げている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には、医療相談室等と連携し、円滑な退院に向けての配慮を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	ご本人、家族の意向を聴きながら、主治医と協議の上、対応を検討している。必要があれば、他の施設や医療機関への入所の支援を行っている。	まず、「緊急事態にはどう対応するか」ということから、利用者・家族にアプローチし、徐々に重度化した場合・終末期のあり方について話し合うよう取り組み、看取りを希望される方に対応したり、利用者・家族の揺れる心に寄り添い支援されています。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	マニュアルを作成している。救護方法について、年1回の訓練を実施している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防防災計画に基づき、年2回、避難訓練を行っている。運営推進会議の開催日にも、消防防災訓練を行っている。	年に2回実施する避難訓練は、運営推進会議実施日に行い、出席委員の理解促進と、地域の協力体制の構築に取り組まれています。また、本年7月の訓練は、消防署の指導・立会いのもと実施し、消防署の見解をもとに、今後、より一層職員の理解・対応力の向上に取り組むこととされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	支援にあたっては、ご本人の気持ちを大切に考え、自己決定を促すような声掛けに配慮している。 トイレは、出入りや介助の際に、他者の目に触れないよう配慮されている。	トイレの出入り口は、食堂や居室から見通せない配置としていることで、事業所のプライバシー確保の考えが明確に示されており、職員による利用者に対する人格尊重・プライバシーを損ねない支援等に、事業所内研修に加え、好影響を与えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃から、利用者ご本人の思いを表現しやすい声掛けや、対応に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかなスケジュールのみ決め、日々は、ご本人の体調や思いに添って、一人ひとりのペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の更衣や入浴の際には、ご本人の好みの服を選んで頂いている。行きつけの美容院に通って頂くよう、ご家族にも協力を依頼している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、外部委託にて、毎食、母体法人より届いている。週2回は、利用者と一緒に昼食作りを行っている。毎食の準備、片付けは、利用者と一緒にやっている。	基本的には外部委託としているが、本年より週2回の昼食を、法人内の栄養士の協力を得て「手作り昼食」とした結果、利用者の昼食時の表情が豊かになり、摂食量が増加する等の効果が現れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分摂取量を毎日記入し、把握に努めている。水分量は1日1200CC以上を目標とし、水分摂取が困難な利用者には、手作りゼリー等で対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアを実施している。歯科医師による訪問診療を週1回受け、口腔ケアに関する指導を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中は、紙パンツもしくはパットでの対応にしている。随時、トイレ誘導を行い、座位での排泄を促している。各トイレには、前傾姿勢支持テーブルが設置しており、自立を促す工夫をしている。</p>	<p>目標水分摂取量を明確にした支援、食事・運動・水分摂取と排泄の関係の理解、正しい排泄姿勢の援助等、排泄の自立のための「根拠に基づく支援」に取り組まれています。調査日現在、オムツを使用する利用者は認められませんでした。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>出来るだけ、自然排便となるよう、水分をしっかりと摂って頂くため、10時、15時にお茶の時間を設けている。毎日のラジオ体操、レクリエーションで、体を動かすようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴は、週2回から3回と決められており、時間も日中の時間のみであり、個々の生活習慣や希望に応じた対応は出来ていない。</p>	<p>継続的な夜間入浴支援、花火の行事の後の、夜間入浴支援などに挑戦するなど、人として「あたりまえの生活づくり」に挑戦してこられている。職員の配置が十分でなかった際に、生活習慣等に応じた対応ができていなかったことを課題として認識し、個々に応じた入浴支援をどう実現するか検討されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>起床時間、就寝時間は一律とはなっておらず、一人ひとりのペースに合わせている。夜間眠れない場合は、温かい飲み物を飲んで頂く等の対応をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりが服用している薬の効能が果たせるよう、確実な服薬支援を行っている。日々の変化については、随時、看護職員に報告、相談している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>食事作り、食事の準備、片付け、洗い物、洗濯干し、洗濯物量み、草取りなど、役割を持って、生活できるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>利用者の希望に合わせ、散歩に出掛けたり、外出行事を行っている。週1回の買い物の日と、月1回のミニドライブを行っている。</p>	<p>日常的な散歩や、非日常を味わう計画的な外出支援、あるいは個別目標による外出支援等、積極的な外出支援に取り組まれています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買い物時には、自分で支払いが出来るよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人の希望があれば、電話を掛けたり等の支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間は、家庭的な雰囲気を感じさせる広さ、内装、照明等に配慮している。各個室、廊下等は間接照明を用い、落ち着いた空間となってる。共用スペースには、床置き空調機を設置し、心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	<p>食堂や居室は間接照明を積極的に採用し、自然に囲まれた環境・自然採光とともに、落ち着いた生活空間を実現しています。騒音も聞かれない、静かな環境で、また、レクリエーションを行うスペースは、カラオケなど必要に応じドアを閉めることにより、音も居室等へ届きにくい配慮がされています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>各階に、食堂とは別にホールを配置し、利用者同士が、思い思いに過ごせるよう配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用に際しては、ご家庭で大事にされていた物を持ち込むようお願いしている。ベッドの向きも、入り口から丸見えにならないよう配慮している。</p>	<p>居室には、筆筒や思い出のあるテーブルと椅子のセット等が持ち込まれ、利用者の手作りの作品やプレゼントされた小物が飾られており、利用者が心地よく過ごせる工夫がされています。なお、夜間の介助時等で、足元の間接照明の設備等の安眠を妨げないための環境づくりへの配慮もされています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>六角テーブルや、本人の体長に合わせた椅子の整備を行っている。トイレや脱衣室には前傾姿勢支持テーブル、浴室には、前傾姿勢保持テーブルを設置し、本人の自立や、介護の安全性に配慮している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 高齢者グループホーム瓢箪家

作成日 平成28年10月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者個々の思いに添ったケアの提供、統一したケアの提供がなされていない。	個々のニーズが、職員間で共有出来、サービスの向上に繋げることが出来る。	担当制を設け、一人一人のニーズをより把握できるようにすると共に、週1回のカンファレンスを実施する。	3ヶ月以内
2	45	利用者の業務に合わせた入浴時間となっている。	利用者一人一人が、満足の出来る入浴ケアを提供する。	夜間入浴の日を週1回設け、利用者の眠っているニーズを掘り起こす。	3ヶ月以内
3	6	熊野町の指導により、門扉の施錠を行っているが、開錠への取り組みがなされていない。	一日の内、何時間かは門扉を解錠するなど、自由に出入りできる時間を設ける。	事業所内で勉強会を実施し、意識の統一を図ると共に、運営推進会議で共に検討を重ねていく。	1年以内
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。